

# 回想法ワークショップ・10月号

平成25年 9月28日発行  
発行 龍ヶ崎市回想法センター  
龍ヶ崎市平台5-9-7  
電話・FAX 0297-65-4443  
e-mail pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp  
h p www16.ocn.ne.jp/~piakaiso

## 季節感がなくなりましたね

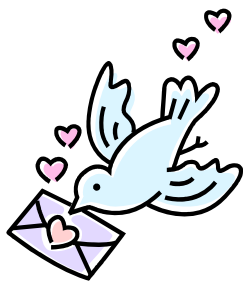
### 手紙書いていますか

手紙を書くのに季節は関係のないはずだが、万葉の昔から、秋空に飛来する雁は懐かしい人の消息をもたらす使いとされてきましたが、今では、メールが瞬時に世界中を駆け巡る時代になりました。

手紙を書いたことのない世代が増えているようで、郵便番号欄に電話番号を書くなど、基本を知らない小中学生が結構いるそうです。昨年の中学3年生の学力テストで葉書に宛名を書く問題が出され正解率は74%だったそうで、危機感を募らせた日本郵便では、教材を使って小中学校へのサポートを始めたそうです。

昨今では先生も手紙を書いた経験が少ないのが実情のようで、親御さんもメールが主流のようです。メールでは心がこもらないとは思いますが、手紙はあらゆる人の喜怒哀楽を綴って来たように感じています。

野口英世記念館に英世のお母さんが息子に出した手紙が展示されています。お母さんが息子に会いたいっしんで字を習得し書きつづられた手紙を読んでいると、自然と涙がこぼれてきます。手紙には優し温もりが隠れているのでしょうか



### 家族の責任どこまで

9月27日の新聞に、「家を出て徘徊していた認知症の男性が線路内に入り、列車にはねられて亡くなった。この男性の遺族に対し、事故を防止する責任があつとして約720万円を鉄道会社に支払うよう命じる判決が出された。認知症の人を支える家族の責任を重くみた裁判所の判決で関係者から懸念の声が広がっている」と報じられていた。

JR側は、「遺族には事故を防止する義務があつた」と。遺族側は「介護の実態を無視した判決で、認知症の人は、閉じ込めるか、施設に入れるしかない」と批判名古屋高裁に控訴したと。

誰でも、認知症になっても、障害者になっても、住み慣れた家で自分らしく暮らしたいと思っています。が、この判決では、自宅では、一瞬の隙間なく監視することはできません。事故防止のためにも在宅介護はせずに施設に入れなさいと言われていたような判決に、悲しくなりました。

「安心して徘徊ができる街」を目指している福岡県大牟田市のように「地域で見守る意識を高めることが、ますます大事になる」ようです。これは誰にでも起こる問題なので、鉄道会社も認知症を理解して駅や踏切などでの事故防止策を考えてもらいたいものです。

## 10月の予定

### 回想ガイド

開催場所 歴史民俗資料館

開催時間 1時30分～3時30分

開催日 1日(火)、4日(金)、26日(土)

### おしゃべりサロン

開催場所 龍ヶ崎市役所地下食堂後

開催時間 2時～4時

開催日 21日(月)